亜急性硬化性全脳炎の疫学調査

研究分担者：東京大学医学部小児科　岡　明

亜急性硬化性全脳炎　全国サーベイランス調査

目的：本疾患の新規患者の発生状況の把握
本疾患の現状での臨床経過

サーベイランス2017
（前回2012年に実施　5年後の実態調査）
一次調査
全国小児神経医療機関
全国神経内科医療機関
計1595施設
目的　全国の患者数の把握
新規発症の状況

一次調査
回答率65%

•全国で66名の患者が確認
•2012年以降の発症と報告されたのは8名

我が国では麻疹対策は効果を挙げ、海外からの持ち込みによる麻疹の発生のみになっている。
亜急性硬化性全脳炎は乳幼児期の麻疹の罹患後、時間をおいて発症するために、わが国ではまだ依然として新規患者が発生している。
今後二次調査として新規発症の実態と、長期の罹患期間を経ている患者の健康状態や必要な医療的ケアの状況を調査する。

解　説

1. 我が国は厚生行政として麻疹の撲滅に取り組んでいるが、麻疹感染後に発症する亜急性硬化性全脳炎の新規発生は継続している。

2. 小児科小児神経科医療機関・神経内科医療機関1595施設に一次調査書を郵送にて送付し、1036通の回答を得た（回答率65%）。全国で66名の患者が確認され、このうち、2012年以降の発症と報告されたのは8名で、引き続き新規発症があることが確認された。現在二次調査を実施中である。